



われらが スタディグループ



公衆歯科衛生研究会 (通称:ネコの会)

- ・代 表 者 黒田耕平 (兵庫県・生協なでしこ歯科小児科部長)
実行委員：岡崎好秀 (国立モンゴル医科科学大学歯学部 客員教授、前・岡山大学病院 小児歯科講師)
- ・設 立 年 1983年
- ・会 員 数 単年度申し込み制 (2016年度は約220人)
- ・主 な テ ー マ 次の時代に求められる口腔保健の情報の提供と発信、グループワークによる情報交換とネットワークの構築
- ・会 合 の 頻 度 年に1回、3月の第1日曜日に兵庫県神戸市で開催
- ・問 い 合 わ せ 先 事務局：木戸みどり (m-kido@mxi.netwave.or.jp)
岡崎好秀 (okazaki@cc.okayama-u.ac.jp)
申し込み (例年1月1日公開)、過去の内容については下記「ネコの会」ホームページを参照。
<http://okazaki8020.sakura.ne.jp/neko/neko.html>



① 最大の長は、グループワークを中心とした参加型の勉強会であること。一つの決められたテーマ(宿題)で話が進む。面識のない人同士が知り合いになれるように、あらかじめグループ分けされており、これが新しいネットワーク構築のきっかけとなる。



グループワーク「フシ腹話術師 短期養成講座」 柳井篤子

*人形の声の出し方 ワンポイントアドバイス

「ヒックスマイルにゃ〜」

- ①写真を撮る時のように「満面の笑み」をたたる
- ②次にその口の形のまま、ちよっと高めのネコの鳴き声の真似をして「にゃ〜 にゃ〜」と鳴く
- ③「にゃ〜あ あいうえお」といいます。 その声があなたの人形の声になります

腹話術人形を使う効果

*最初に人形が登場することで「つかみ OK」の状態になり観客は話に集中しやすい。この効果は年齢には関係ない。*人形を「良い子」にするのではなく「悪い子」「何も知らない子」にすることによって、観客から正しい答えを導き出す機会を作る

台本の作り方

*人形のセリフに動詞(まみむめも ばびぶべぼ ばびぶべほ)がなるべく入らないようにする
*術者と人形の両方が真面目で教育的な話をするのではなく、漫才の「ボケ」「ツッコミ」のような役をする。*観客が「笑顔」になるような台本作りをする

人形の声の作り方

*ネコが鳴くような少し高い声で「ニャー」と言ってみる。これが人形の声になりやすい
*術者と人形は性格(キャラクター)も違っているので、声も分かりやすく変える必要がある

健康教育腹話術について

堅苦しい話をする時、身近にそして楽しく伝える手段として「腹話術」を活用します。

あいさつの練習 (子どもから大人までウケる鉄板ネタ)

術者	今から挨拶の練習をしましょう	人形	ウン
○	それじゃ、はじめよ	×	ウン
○	こんにちば	×	コン チ ク ハ
○	ちがうよ〜「こんにちば」	×	コン ニヤク ハ
○	まじめにやるとって言っただけでしょう?	×	コン ニ チ ハ〜
○	やればできるじゃない	×	エヘヘ
○	次は「あいうえお」	×	アホカイナ
○	違うよ〜次は「かきくけこ」	×	カキクイタイ
○	「さしすせそ」	×	サルノヘソ
○	「たちつと」	×	タチションベ(ザン)
○	「なにぬねの」	×	ナニ イッテンノ?
○	も〜けんちゃんたらあ〜	×	ごめん ごめん

②⑥ 腹話術短期養成講座。手袋に目玉を付けて簡易腹話術人形を作る。腹話術のコツを習って、早速発表会。

発足のきっかけ

1970年代後半、大阪大学歯学部小児歯科の下野勉先生(元・岡山大学歯学部行動小児歯科教授。当時助教授)が、う蝕活動性試験カリオスタット(CAT 21テスト)を開発した。当時は乳歯う蝕の洪水といわれた時期であり、1歳6か月児歯科健診が行われ始めた時期でもある。

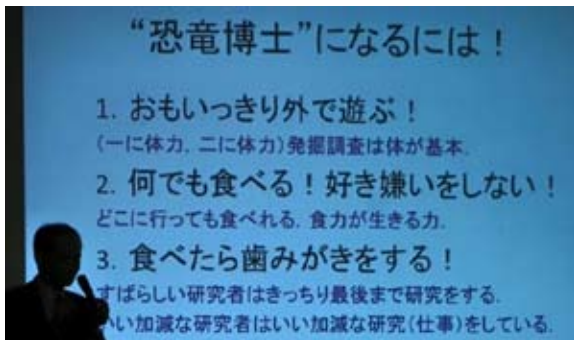
そこで弟子の医局員が、乳幼児歯科健診でのスクリーニング法としてCAT 21テストの有効利用を考える会として発足した。「ネコの会」の由来は、Cats Activity Test (CAT) をもじったものである。設立は1983年で、毎年3月の第1日曜日に開催し、2016年に33回目を迎えた(阪神淡路大震災の年のみ中止)。予防歯科や食育など、多方面にわたる口腔保健情報の発信の場となっている。

活動内容

参加者は、歯科医療関係のみならず、医師・薬剤師など医療従事者、教師・養護教諭など教育関係者など多岐に及ぶ。一般に不特定多数が参加する勉強会は、スピーカー対聴講者という関係に終始しがちである。しかしこの会は、参加者全員が積極的に発言し、交流を深めながら進行するように企画している。



④ 岐阜県・稲葉歯科医院院長 稲葉幸二先生と奈良県・林小児
歯科院長 林昌司先生による「替え歌」の熱唱。



⑤⑥ 特別講演は、ほとんどが歯科
以外の分野から。入場者数が右肩
上がりの福井恐竜博物館主任研究
員の寺田先生に、人を引き寄せる
展示法やその魅力について語って
いただく。



⑦⑧ 岩手県・大船渡小学校の教室
にある大きな桜の絵。よく見ると、
桜の花は子どもの手形。中島洋子
先生が定期的に訪れ、絵を通して
「子どもの心のケア」を行っている
とのこと。「地震にも津波にも負け
ない大きな桜を咲かせようと呼び
かけて、ハンドペインティングで
桜を描く」。その活動に感動し、特
別講演の講師をお願いした。

そのため、朝はグループワークから始
まる。あらかじめ16のテーブルを配置し、
見ず知らずの人間士が知り合いになるよ
うにグループ分けをしている(①)。グ
ループワークの内容は年度によって異な
り、会より提示した宿題の提出によって、
申し込みが完了する。

2016年は、北は北海道旭川(養護
教諭)から南は沖縄石垣島(内科医師)ま
で約220人が参加した。9時から17時

まで、グループワークに続き多くの講師
陣が登場して、プログラムはてんこ盛り。
これから求められる情報を「いの一」に
発信するように苦心している。

■最近の主なグループワークの内容

- ・健康腹話術士短期養成講座・これであ
なたもプチ腹話術士(②③)
- ・替え歌で「お・も・て・な・し」グルー
プで替え歌コンテスト(④)
- ・「囁む効用 ア・イ・ウ・エ・オ」

■2016年の特別講演

- ・「福井県立恐竜博物館の魅力と不思議」
福井恐竜博物館主任研究員 寺田和雄先
生(⑤⑥)
- ・東北大震災「く芸術を通した命の授業
く命の一本桜プロジェクト」造形絵画教
室「アトリエ太陽の子」主宰代表 中嶋
洋子先生(⑦⑧)

また、特別講演の他にも多くの演題が
あり、手弁当で参加する有名講師も多い



9 元NHK「ためしてガッテン」ディレクター・北折一氏の「パワポ見せ方講座」。



10 11 12 子どもが作る“弁当の日”提唱者の、元小学校校長・竹下和男先生。年間200回も講演会を開いている。映画や本で有名な「はなちゃんのみそ汁」を一躍有名にした。誰もがスライドショーを見て涙を流す。



16 日本笑い学会副会長 昇幹夫先生（産婦人科医）も毎回参加。



14 15 『ビッグコミックオリジナル』などで歯科にまつわるマンガも描いている魚戸おさむ先生も、会の取材に来てくれた。

(9) (18)。しかも持ち時間は一人15〜30分。誰もがもつと話を聞きたいと思っっている。しかし、その講師は話が終わればグループへ戻る。そして、いつの間にか有名人と知り合いに……。こうして、有機的に新たなネットワークの構築を目指している(19) (20)。

昼休みにはプレゼント交換会が催される。参加者は面白そうなグッズや地方の名産をお土産にし、きれいな紙に包ん

で持参する。これも参加者にとって一つの楽しみとなっている(21) (22)

参加者の声

- ・永六輔氏の言葉に「人生を3倍楽しむためには、3人の面白い人と付き合えばよい」とある。まさにこの会は、人生を楽しくする方との出会いの場といえるだろう。

- ・この会は、元気になるだけでなく健康になる会でもある。現在ほど「あいいうべ体操」が有名でなかったころ、今井一彰先生と出会って実践してから、40年来の口呼吸が鼻呼吸に変わり、インフルエンザや咽頭の炎症に悩まされることがなくなった。また、元NHKディレクターの北折一氏に「計るだけダイエット」を教えてもらったところ、10カ月で17kgの減量に成功し、血液検査や



今井一彰先生



←小菅正夫先生

19 20 グループワークには、有名な先生方も同席する。



21 22 全国からの参加者がお土産にプレゼントを持参し、昼休みにくじ引きで交換会が行われる。



16 17 パフォーマンスに長けた歯科衛生士も続々登場。歌って踊って楽しく学ぶ健口寸劇「おいしい人生 歯は命」を上演する、結成20周年の元祖・歯科衛生士劇団「わっ歯っは」(団長：和田美登里先生)。障がいのある方によるサインダンス(手話ダンス)や手品も恒例となっている。



18 人形劇「歯村動物園のゆかいな仲間たち」を上演する、香川県・本田理恵先生。

今後の予定

これからもこの会を契機として、社会に求められる情報を発信していきたい。
2017年度は3月5日に神戸で開催予定。2016年の参加者数は220人で、希望者多数のため、申し込み開始3週間あまりでキャンセル待ちとなった。
次回の案内を希望される方は、事務局の木戸みどりまで。年明けにメールでお知らせします。宿題は「歯科川柳」の予定。

尿検査も正常になった。「びっくり箱」のようなこの会で、毎年どんな話が聞けるか楽しみにしている。
〔神奈川県・柏木歯科医院院長、柏木勢先生〕
・この会は、これから全国区で活躍される方の登竜門となっている。昨年、西田互先生の講演を拝聴し、宮崎市歯科医師会では、歯周病の節目健診で簡易血糖を測定することになった。
〔宮城県・矯正・小児ひまわり歯科院長、柿崎陽介先生〕

最近5年間の特別講演



「未来を変える“あいうべ体操”」

福岡県・みらいクリニック 院長
今井一彰先生



「糖尿病専門医が語る 歯科医療の素晴らしさ」

愛媛県・にしだわたる糖尿病内科 院長
西田互先生



「一口30回で105歳」

炎の105歳、「しいのみ学園」園長 昇地三郎先生

「歯科医が語る糖尿病攻略法～歯科からの口方歯援」

愛媛県・原瀬歯科医院 院長 原瀬忠広先生

「現役獣医が語る水族館の裏事情」

沖縄県・海洋博公園 動物管理チーム 獣医師 柳澤牧央先生

「おだしプロジェクトで日本を元気に」

愛情料理研究家 土岐山協子先生

「いのちをつなぐということ～被災地、紛争地、在宅看取りの現場に想う」

写真家・ジャーナリスト 国森康弘先生

「その人らしさを支えるーリハビリの心とカー」

東京都・NTT東日本関東病院 リハビリテーション科 稲川利光先生

「地域に“寄りそ医” 20年 地域住民と診療所医師の強くて温かい絆の物語」

福井県・名田庄診療所 所長 中村伸一先生

「旭山動物園の動物は、なぜ元気なのか？」

北海道・旭山動物園 元園長 小菅正夫先生

●このコーナーにご登場いただけるスタディグループを募集中です。ぜひ apollonia@dentalnews.co.jp までご連絡ください。